

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和4年4月19日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立日根野中学校 第3学年，全生徒

実施生徒数（ 157 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・全国正答率との差は、大きくはない。自分で考えて、記述式の問題にやや苦手な傾向がある。また、話すこと・聞くことの問題も苦手である。

平均正答率（本校 67／泉佐野市 63／大阪府 67／全国 69.0）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
【知識・技能】【思考・判断・表現】 1 三 スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く。(35.0/51.8) 【思考・判断・表現】 3 四「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げ書く(67.5/73.8)	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	83.1	89.7	◇	6.6
国語の授業内容はよくわかりますか	81	81.2		0.2

- 話すこと・聞くことの問題に苦手な傾向が見られる。普段の授業でも、なかなか取り上げることが出来ていないので、今後、授業でも取り入れていきたい。
- 国語に関する知識はあるが、それを活用するのに苦手な傾向がある。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は全国と比べてあまり変わらないが、データの活用分野においては、3問中2問が4ポイント以上、下っており、他に比べ、苦手な傾向にあることが見受けられる。

平均正答率（本校 51／泉佐野市 45／大阪府 51／全国 51.4）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

数学	特徴がみられた設問
<p>【データの活用】 データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。</p> <p>7 (1) コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する (35.0/44.0)</p> <p>【データの活用】 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。</p> <p>7 (2) 箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ (40.1/44.1)</p> <p>【関数】 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。</p> <p>8 (1) 与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く (59.2/54.6)</p>	<p>【関数】 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。</p> <p>8 (2) 目標 300kg を達成するまでの日数を求める方法を説明する (33.8/38.4)</p> <p>【図形】 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。</p> <p>9 (1) 証明で用いられている三角形の合同条件を書く (77.7/73.2)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の勉強は大切だと思いますか	82.2	86.6		4.4
数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	40.1	47.3	◇	7.2

○数学の内容が生活の中に使われている具体例を授業の中であまり示していないため、数学の活用方法や必要性を考えるポイントが少ない結果になったのではないかと考えられる。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

・平均正答率は全国に比べて1.3%下回っている。問題形式で見ると、選択式は全国平均と比べて、あまり変化はないが、短答式が全国平均を上回っている。しかし、記述式が全国平均を下回っているため、単語で答えることは得意であるが、考えを文章化することが苦手であることが見受けられる。

平均正答率（本校 48 / 泉佐野市 42 / 大阪府 47 / 全国 49.3）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

理科	特徴がみられた設問	
【「地球」を柱とする領域】 天気の変化を化学的に探究する	【「エネルギー」を柱とする領域】 押して使うばねを化学的に探究する	
<p>2 (1) 観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる。(48.4/54.2)</p> <p>【「粒子」を柱とする領域】 水素の利用を化学的に探究する</p> <p>3 (1) 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる。(74.5/80.1)</p>	<p>5 (2) 課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身につけているかどうかをみる。(54.1/45.0)</p>	

3. 学習状況調査より

質問項目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は大切だと思いますか。	69.4	76.8	◇	7.4
理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。	40.1	64.5	○	24.4
理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか。	50.3	78.9	○	28.6

○授業での実験の回数が少ないので、観察や実験の結果をもとに考察することが少ないと考えられる。

○生徒が考察することに慣れていないので、知識を応用して使うことが難しく、記述式が全国平均を下回ったと考えられる。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【自分自身の様子】	将来に夢や希望を持っていると回答する生徒の割合が、全国平均を下回っている。	将来の夢や希望を持っていますか < 59.2 / 67.3 >
【家庭学習の様子】	学校の時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたり2時間以上勉強をしている生徒の割合が全国平均を上回っている。	学校の時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらい勉強をしますか 3時間以上 < 23.6 / 9.9 > 2時間以上、3時間より少ない < 29.3 / 25.3 >
【学校での学習の様子】	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる生徒の割合が、全国平均を下回っている。 学級で、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した生徒の割合が、全国平均を下回っている。 1.2年生のときに受けた授業において、PC・タブレットなどのICT機器を使用した頻度は、週1・2回程度であったと回答する生徒が多い。 道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した生徒の割合が、全国平均を下回っている。	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。 < 53.5 / 72.1 > あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。 < 57.3 / 76.8 > 1.2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか 週1回以上 < 56.7 / 29.7 > 週3回以上 < 10.2 / 29.3 > ほぼ毎日 < 2.5 / 21.6 > 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか < 65.0 / 85.5 >

本校の取組

◎これまでの取組

- ・研究主題を「生きる力を育てる！～生徒も教師もワクワクする授業を目指して～」に改定。
生徒の「知りたい」「学びたい」気持ちを刺激する知的好奇心あふれる授業づくりを目指して取り組んだ。

学びの環境づくり

- ・授業規律マニュアルを周知し、生徒が落ち着いて授業を受けられる環境づくりに努める。
- ・教室や授業のユニバーサルデザインに基づき、「わかる授業づくり」を目指す。
- ・放課後の「まなびんぐ学習」、長期休業中の「補充学習」の実施や日々の授業、家庭学習の工夫を通して、個別最適化された教育の実現を目指す。

授業力の向上

- ・授業では「めあて、ふりかえり」を提示するなど、泉佐野スタンダードを活用する。
- ・より気軽に授業を参観できる環境にする「オープンドア」を実施する。
- ・研究授業・研究討議で生徒の実態や成果・課題を共有し、PDCAサイクルによる授業改善に努める。

地域との協働を通して、社会に開かれた教育の実現

- ・職場体験学習、進路学習を通じたキャリア教育の充実を図り、夢や目標について考える機会を設ける。
- ・各教科において、国際教育の視点を盛り込みつつ、教科における学習と総合的な学習の時間が関連するよう工夫する。
- ・地域学習のフィールドワークでは、地域の歴史を知り、地域を支える人々との出会いを通して、魅力を再発見し、よりよい地域づくりに貢献できるような活動を実施する。

ICTを活用した情報活用能力の育成

- ・学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて「情報の収集・整理・分析・表現・発信」等を行うことができる力の育成を目指す。
- ・授業で積極的に「一人一台端末」を活用しながら、生徒がデジタルのよき使い手となる情報モラル教育を目指す。

◎これからの取組

- ・学び方やカリキュラム・マネジメントを充実させることで、「生きる力」を育む教育活動を実現する。

学びの環境づくり

- ・生徒が安心して学び向き合えるように、授業規律マニュアルを徹底し、よりよい学習環境づくりに努める。
- ・教室や授業のユニバーサルデザインに基づき、「わかる授業づくり」を目指す。
- ・放課後の「まなびんぐ学習」、長期休業中の「補充学習」の実施や日々の授業、一人一台端末を活用した家庭学習の工夫を通して、個別最適化された教育の実現を目指す。
- ・毎日の清掃活動で学校の衛生環境を整え、自己の心身の安定や自己有用感の向上につなげる。

授業力の向上

- ・授業では「めあて、ふりかえり」を提示するなど、泉佐野スタンダードを活用する。
- ・相互参観「オープンドア」を実施し、個別のフィードバックによる授業力向上と、授業での生徒観察による生徒理解につなげる。
- ・研究授業・研究討議で生徒の実態や成果・課題を共有し、PDCAサイクルによる授業改善に努める。

地域との協働を通して、社会に開かれた教育の実現

- ・さまざまな人の想いに迫るキャリア教育の実現を目指し、将来に夢や希望を抱けるような心の充実を。
- ・カリキュラム・マネジメントを工夫し、各教科において、教科における学習と総合的な学習の時間が関連するよう工夫する。
- ・地域学習のフィールドワークでは、地域の歴史を知り、地域を支える人々との出会いを通して、魅力を再発見し、よりよい地域づくりに貢献できるような活動を実施する。

ICTを活用した情報活用能力の育成

- ・学習活動においてICT機器を効果的に活用し、「情報の収集・整理・分析・表現・発信」等を行うことができる力の育成を目指す。
- ・授業で積極的に「一人一台端末」を活用しながら、生徒がデジタルのよき使い手となることを目的とする「デジタルシティズンシップ教育」の充実を目指す。

ウェルビーイングの向上

- ・生徒も教師も、心身が健康で幸せに過ごせる学校づくりに努める。